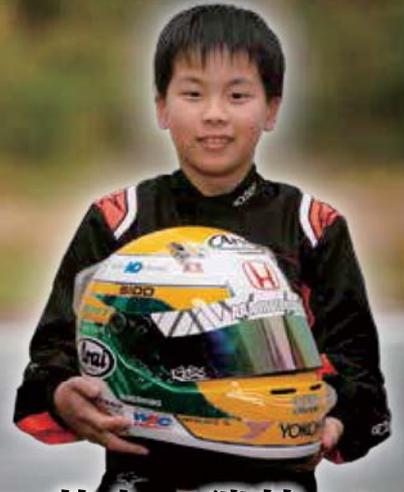


## 親子で掴んだ九州の頂



井上 瑞基くん  
(11歳 建浜)



🏆 ROTAX MAX CHALLENGE 九州シリーズ Micro Max チャンピオン  
🏆 JAF/JMRC公認 TOYOPET SL カートミーティング Micro Max チャンピオン

### 幼いころからの夢に向かって

瑞基君がレーシングカーに興味を持ち始めたのは2歳のころ。偶然テレビで放映されていた国内最高峰のレースとも言われる「SUPER GT」を、瑞基君はかじりつくように見ていたという。それがきっかけで、休みの日にはサーキットで観戦するなどレースに夢中になり、小学1年生の終わりごろにはドライバーとしての道を歩み始めた。

ROTA X MAX CHALLENGE 九州シリーズは、6レースで展開されており、1レースごとの順位でポイントが与えられ、年間チャンピオンを決定する仕組みとなっている。チャンピオンになるためには、各レースで上位に入らなければならないというプレッシャーもあるが、瑞基君は苦戦を強いられながらも何とか上位でポイントを重ねていった。

現在、参戦しているカテゴリーは、Micro Maxクラス。8馬力125CCの排気量で最高時速は何と100キロメートルにも到達する。小さいコーナーを得意とし、他のカートとバトルする楽しさがレーシングカートの魅力と笑顔で話す瑞基君。その反面、時速100キロメートルからのブレーキやコーナーリングではクラッシュする危険と隣り合わせのための怖さも

ある。大会の当日は極度の緊張で腹痛を起こすこともあるが、カートに乗ればすぐに吹き飛んでしまおうと話す。

練習日は週1回という少ない練習時間にも関わらず、成長を遂げている理由の一つがカートに乗ったら必ず書いているというノート。そのノートには、良かった点や悪かった点が記され、次に乗るときは意識して乗るよう心がけている。

そんな瑞基君を一番近くで支えているのはお父さんの大学さん。瑞基君がレーシングカートを始めたころからカートの整備を学び、メカニックとしてレースに帯同している。天気はもちろんのこと、温度や湿度などに合わせて細かい調整が必要となるため、瑞基君と同じように大学さんも毎回ノートに書き記

して瑞基君の夢を全力でサポートしている。



「憧れの山本尚貴選手と一緒にSUPER GTに出て走りたいです」と話す瑞基君。来年からは、1つ上のクラスにステップアップして、新たなステージに挑戦する。幼いころからの変わらぬ夢に向かって、瑞基君と大学さんはこれからも道を切り開いていく。